

# 競 技 注 意 事 項

本大会は、2016年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって行う。

## 1 練習について

練習は、補助競技場および雨天練習場（使用方法について下記参照）を原則とする。投てき競技（円盤投・ハンマー投・やり投）の練習については、多目的広場を使用する。砲丸投の練習は、係員の指示に従って補助競技場内トラック外側の砲丸投ピットのみで行う使用の際は係員の指示によって行う。

### 補助競技場の使用について

レーンの使用については以下の通りである。

- ・ 1～2レーンは周回練習のみ使用可とする。
- ・ 3～4レーンは短距離練習のみ使用可とする。
- ・ ブロックを使用してのスタート練習は多目的広場側直走路5～10レーンのみとする。
- ・ 多目的広場側直走路7・8レーンは女子ハードル、9・10レーンは男子ハードルとする。  
※ハードルを置いての練習は10時以降から行うこと。
- ・ 第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路の5レーンは女子400mH、6レーンは男子400mHとする。
- ・ リレーの練習は用具倉庫前第2コーナー付近を利用して行うこと。  
※リレーの練習をする際は、周囲の安全に注意して行うこと。  
※第4コーナー付近でのリレー練習は行ってはならない。

### 雨天練習場の使用について

- ①雨天練習場でのピストルの使用は禁止する。
- ②雨天練習場へは、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止する。
- ③シート等を敷いて独占的な使用をすることを絶対にしない。
- ④ウォーキング・ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよい。それ以外は、補助競技場で行うこと。
- ⑤ウォーキング・ジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。
- ⑥ハードルは使用できない。

### 棒高跳について

競技開始60分前から現地にて跳躍練習を行うことができる。ただし、他の競技に影響がでないように、審判員の指示に従うこと。

## 2 スパイクシューズの制限について

全天候競技場であるため、スパイクの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以下とする。

### 3 ナンバーカードについて

- ・ナンバーカードは指定された数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。ただし、跳躍競技（走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳）に出場する選手はどちらか一方でもよい。
- ・トラック競技に出場する選手は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの右横や後方につけること。
- ・3000m以上の種目は別ナンバーカードを使用する。  
別ナンバーカードは招集所にて配布する。

### 4 選手招集について

- ①選手招集場所は、第2ゲート付近とする。
- ②選手招集開始・完了時刻は下記のとおりとする。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック種目	競技開始30分前	競技開始20分前
トラック種目（決勝種目）	競技開始25分前	競技開始15分前
フィールド種目	競技開始40分前	競技開始30分前
フィールド種目（棒高跳）	競技開始70分前	競技開始60分前

※棒高跳は、現地で招集を行う。

- ③招集完了時刻に遅れた選手は棄権とみなす。
- ④リレーのオーダー表は招集完了時刻1時間前までに提出のこと。
- ⑤2種目を同時に兼ねて出場する選手は、あらかじめ競技者係に申し出る。

### 5 競技について

- ①競技順は、プログラム記載の番号順とする。
- ②その競技をする選手以外は、トラックおよびフィールド内に立ち入ることはできない。
- ③トラック競技のスタートについては、下記のとおりとする。  
「不正スタートについては、各レースでの不正スタートは1回目からすべて失格とする。」
- ④スターターの合図は英語とする。（「On your marks」、「Set」）
- ⑤短距離走では選手の安全のため、決勝線到着後も自分に割り当てられた走路を走ること。
- ⑥男子少年B3000mは、グループスタートで行う。
- ⑦トラック競技において、同記録者がでた場合は、写真判定主任により写真を拡大し細部（電気時計1/1000）まで読み取り着差の判定をする。ただし、着順優先とし、各組上位者のみとする。
- ⑧レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- ⑨リレー競技のマーカの使用は個人の物を認めるが、1カ所のみとする。使用したマーカはそのチームで処理する。
- ⑩予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。トラック競技の決勝については、主催者側が公平に抽選をし、その結果を番組編成表示板に掲示する。
- ⑪競技場内での跳躍、投てきの練習は、審判員の指示によって行う。
- ⑫男子5000mW・女子5000mWについては下記の時間を越えて最終周回に入らない。  
男子5000mW：25分、女子5000mW：30分
- ⑬携帯電話等の通信機器・ビデオ・デジタルカメラ等を競技場内に持ち込むことはできない。コーチエリアからのコーチの持つ映像を見せることはできる。ただし、選手が機器等を手に持って画像を確認することはできない。

6 競技用具について

- ①競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。ただし棒高跳用ポール・やりは検定において合格したものに限り使用が認められる。  
個人所有のポールの検査は最終点呼時に跳躍審判が行い、やりの検定は競技開始60分前に招集所にて実施する。
- ②練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んではいない。

7 競技場への入退場について

種目別入退場口は下記の通りとする。各ゲートへは競技場外周を利用して移動すること。

第1ゲート：第1コーナー付近からスタートするトラック競技

第2ゲート：1500mおよび棒高跳・投てき競技

第3ゲート：第3コーナー付近からスタートするトラック競技および走高跳

第4ゲート：100m付近からスタートするトラック競技および走幅跳

8 走高跳・棒高跳のバーの上げ方

		練習									以降
走高跳	男子	165	170	175	180	185	190	195	198	201	3cm刻み
	女子	140	145	150	155	160	163	166	169	172	3cm刻み
棒高跳	男子	290	300	320	340	360	380	390	400	410	10cm刻み
	女子	190	200	210	220	230	240	250	260	270	10cm刻み

第1位決定のために行うバーの上げ下げは、

走高跳 2cm

棒高跳 5cm 単位とする。

9 三段跳の踏み切り板の位置について

三段跳の踏み切り板の位置については、砂場から下記の入りに設置する。

男子・・・12m00

女子・・・9m00

10 計測ラインについて

跳躍・投てき種目においては、計測ラインを設けることがある。

11 表彰について

各種目の表彰は、決勝終了の都度行う。各種目とも1位には賞状と賞杯、2位・3位には賞状を授与する。

12 四国選手権調査書について

各種目で8位までに、入賞した選手は、にて四国選手権調査書を必ず記入し、提出すること。

※出場の意味がない場合も必ず提出すること。

12 その他

①やむを得ず棄権するときは、競技者係まで必ず届け出ること。

②応急処置を要する健康上の問題が発生したときは、スタンド下の救護室に連絡すること。

③更衣室については、競技場メインスタンド下通路を入れて左側にあるので利用してもよい。

④フィールド競技については、計測ラインを設けることがある。

⑤記録は競技場メインスタンド下正面玄関付近に掲示する。